



F A S 通信

平成17年12月号
株式会社福地建装
上磯町中野通 321 番地
TEL0138-73-5558

NO.032

本当の「温熱環境」とは？

高気密・高断熱「高」が曖昧

日本の住宅における「温熱環境グレード」は先進諸外国の中で最低と言われて参りました。しかし、遅ればせながら開口部建具の二重化や性能の高い断熱材が使用されるようになり、エネルギー消費大国の日本は2度のオイルショックを経て省エネの観点から家の気密・断熱化が進んで参りました。

平成4年に新省エネルギー基準が定められて以降、断熱や気密施工の合理化を図るために新たに多くの手法が生まれ、実践されて参りました。

平成11年には、地球温暖化防止の一環として次世代省エネ基準が定められ、単に暖房の省エネだけでなく冷房の省エネも備えた基準が示されました。

全国的に住宅の高気密・高断熱という言葉が業界内では一般的となり、ハウスメーカーや地場工務店にもようやく認知され、この頃から気密・断熱住宅に着手した工務店も多くなりました。また、時代の要請でもある省エネの見地から、一般的にも気密・断熱の必要性が徐々に広まってきました。

しかし、この気密・断熱に対して正しい知識や理解が不足している事から、設計や施工が不完全のために、想定される性能に達せず種々の弊害が発生する例も見られます。この高気密・高断熱の「高」を付ける基準が曖昧です。

温熱環境の4要素

BIS（社団法人北海道住宅リフォームセンターが実施している、認定試験で温熱環境に関する専門技術者のこと）の指針の中で、断熱・気密・換気・暖冷房の4要素は、それぞれが温熱環境に密接に関係していて、これらをきちんと計画することで、初めて快適性と経済性を兼ね備えたバランスの良い家全体の温熱環境をつくることができるとあります。

しかし、残念ながら、このことを正しく理解しているサブユーザーやエンドユーザーが余りにも少ないのです。この、全館暖房・全館冷房と言っても、定義をしっかりと理解されていないので、性能にもバラツキがあります。

ひどいところでは、断熱・気密は行っても、「暖房機はホームセンターなどでご自由に買ってください」という所さえあるようです。

低気密・高断熱は成立しない

低気密・高断熱の方が、人の健康にも家にも良いと言っている工務店も実際に存在します。このようなことを言う工務店のほとんどは、気密・断熱の優れた家を造れないからかなと思いたくもなります。気密性能は寒さ対策として必須ですし、高断熱は暑さ対策として不可欠です。つまり厳しい寒さの冬と、灼熱の暑さである夏の季節を快適で省エネ空間を構築するためには、しっかりとした気密性能と断熱性能が相まって不可欠な要素となります。

気密性能を高めれば家の隙間が少ないということですから、適切な換気が必要になります。しかし、換気が多すぎれば夏の高温多湿、冬の低温乾燥の外気の影響を受けてしまいます。家の気密性能に伴う適切な換気量が求められます。この家の性能によっては必然的に室内の酸素を燃焼させないオール電化システムを選択する場合が出て参ります。

断熱基準は南下するほど薄くするようになっていますが、夏場の屋根の表面温度は100度を超える時もあり、小屋裏温度が70度以上にもなります。温暖地の冷房省エネにおいては、断熱材の厚さを北海道並みに厚くする事が必要です。CO₂削減や省エネ対策、少子高齢化社会を迎える時代背景を考えれば、家の正しい性能向上が強く求められるのです。

冬の知恵袋

大掃除のつよ～い味方

大掃除のシーズンがやってきました！
毎日掃除機をかけていてもカーペットに付いたほこりや髪の毛をきれいに取るのは難しいよね。粘着テープを使ったお掃除用具でカーペット掃除をされているお宅も多いんじゃないかな。でもあれって不経済だよな。

この時活躍するのが『ゴム手袋』なんだ。
やり方は簡単。ただカーペットの表面をゴム手袋をした手でなでるだけなんだよ。この時、別に力を入れなくて、ただなでるだけでいいんだ。たったコレだけで驚くほどたくさんゴミが取れるから、ぜひぜひ、今年の大掃除に試してね！

